平成３０年度第２回古賀市地域活動サポートセンター運営委員会

会議録

１．日時　平成３０年１２月１８日（火）１０時００分～１２時００分

２．場所　地域活動サポートセンター「ゆい」

３．出席者　村山安廣会長　佐々木洋子副会長
山田小織委員　柴田芳孝委員　渋田昇委員
大庭久美子委員　柳武繁行委員　秋山実里委員

４．欠席委員　納冨育代委員　木村美幸委員
古賀市地域活動サポートセンター条例施行規則第１６条第２項の規定により「運営委員会の会議は委員の過半数が出席しなければ開くことができない」となっている。委員定数１０名のうち過半数の出席があり、会議は成立。

５．報告・議事
（１）平成３０年度地域活動サポートセンター事業の進捗状況について
①介護予防サポーター活動支援事業
②介護予防運動活動支援事業
③介護予防音楽活動支援事業
④地域活動サポートセンター活動支援事業
⑤生活支援体制整備事業
（２）平成３１年度　地域介護予防「ゆいさぽ」の新体制について
（３）古賀市生活支援体制整備事業について

６．議事の概要

（１）平成３０年度地域活動サポートセンター事業の進捗状況について

①介護予防サポーター活動支援事業
【質疑】
○サポーター受入施設・団体の登録状況について、前年度と比較して、受入施設・団体が増えているが、どのようなアプローチをかけているのか。

⇒担当が、施設や実際に地域活動をしている場所を訪問し、掘り起こしを行っている。

○サポーター活動に関する情報について将来的にアプリの開発や、古賀市のホームページにて情報発信を行ってほしい。
⇒古賀市のホームページ等での情報発信は介護支援課単独では出来ないため、動向をみながら協議・検討したい。サポーターに関する情報については、チラシを作成する等、情報の提供方法を検討中である。

○サポーター受入施設と地域団体の登録について、今後の目標は。
⇒高齢者施設のみでなく、小学校・保育園等子供たちとの交流も含め、介護予防サポーターの活躍の場を広げていきたい。将来的には４６行政区で活動が広がる事を目指していく。

○介護予防サポーターの登録人数１９２名のうち、６５歳以上が１６４名とある。平均年齢や年齢層の内訳を示してほしい。
⇒６０代、８０代の方は少なく、７０代で活躍されている方が多い。７０代の方が８０代になり、活動が難しくなるとそこで止まってしまう。今後は先を見据え、５０代、６０代の方も対象に人材育成に力を入れることを考えている。

○登録団体や介護予防サポーターの具体的な数値の目標は。実績数だけでなく、目標数も記載されている資料作りをしてほしい。
⇒介護予防サポーター事業は平成２８年度に立ち上げ、今年度で３年目の事業であるため、目標の設定が難しいと考える。現段階では、前年度と比較することで進捗状況を管理している。今後、進捗管理の方法並びに、指摘いただいた資料の作成方法について検討していきたい。

②介護予防運動活動支援事業
【質疑】
○運動の出前講座の依頼が３倍に増えているが、どの内容の依頼が増えたのか教えてほしい。
⇒「ボールゲーム体験講座」と「始めよう！すきま時間で家トレ」の依頼が増えている。また、ゆい独自の出前講座の依頼も３件増えている。

○介護予防サポーターの登録が進まない理由を教えてほしい。また、今後どのように人数を増やしていくのか。
⇒福祉会として活動していたが、福祉会を辞めた為に現在活動をしておらず、登録をしていない方が多いと聞いている。今後、福祉会を辞めた方が活動をできる場を広げていきたい。

○運動実施状況に関するアンケートについて、アンケートの対象者は。
⇒現在地域で積極的に活動している方がアンケートの対象となっている。

○今後、アンケートの対象者を地域で積極的に活動している方以外に広げ、新たなニーズをつかむ事も考えているか。
⇒アンケートを行った最初の目的は、現在地域で運動活動に参加している方に行っている運動が、適切なのか確認するためであった。アンケートの結果をふまえて、今までやっていた運動に新しい運動を取り入れている。　地域全体としては、介護保険計画策定の際のアンケート（３年に１度）の中で認知力の低下等の分析をしている。今後、国の平均と校区ごとの平均を比較しながら検討していきたいと思う。

○ボールンピックについて、今年度より予選会が取り入れられているが、今年度の実施方法について、ボールンピックに出場した方たちの意見を確認するため、アンケートをとっていただきたい。
また、予選会をするにあたって、シニアクラブがチーム作りに苦労していたが、予選会が２部制になり、２部には何チーム出場したのか。

⇒ボールンピック大会への参加を希望する応募人数が増え、予選会を行うことになった。アンケートをとることも検討したが、今年度から実施方法が変更になり混乱が予想されたため、今回はアンケートを行わなかった。アンケートについては検討したいと考えている。
２部に参加したのは６チームで、シニアクラブの中でもボールゲームが普及していない地域もあり、シニアクラブに出場チームの編成についてご尽力いただいた。しかし、小野校区のように、今年初めてボールンピック大会に参加し、それがきっかけとなり、地域での交流に今後も使おうと検討している地域もある。この事業に対する理解が深まり、シニアクラブには感謝している。

○事業名について、報告書には事業名が介護予防運動サポーター事業、レジメには介護予防運動活動支援事業と記載されているが、使い分けているのか。
⇒記載ミス。介護予防運動活動支援事業で統一する。

○介護予防運動サポーター、介護予防音楽サポーターの中には、他に資格を持って活動している方もいると思う。そういう方の掘り起こしや活用は考えているか。
⇒月に１度、ちょいさぽ研修を行っており、地域の介護予防に参加したいという方はちょいさぽ研修を受けた後にサポーター登録をしていただき、ゆいにて地域のニーズとのマッチングを行っている。

③介護予防音楽活動支援事業

【質疑】

○今年度、新規開校が４カ所とあるが、シニア世代だけでなく、若い世代の方も活動に参加しやすいよう、ひとつの地域に１カ所ではなく、数カ所地域登録することは可能か。

⇒可能。指導は難しいが、手伝いならできるという方にも音楽サポーター養成講座を受講していただき、自分の地域で活動を支える体制を作るのがスムーズな地域展開につながると考える。

○久保区は今年度より音楽活動を開始し、２月の活き生き音楽交流会にむけて積極的に練習に取り組んでいる。音楽にかかわらず、他の活動においても全体で発表する機会が増えればより活動が活性化すると思う。

⇒行政として、地域活動の際に大切なのは、環境整備・人材育成・教材作り・交流と考える。今後もみなさんの負担にならないように交流の場を支えていきたい。

④地域活動サポートセンター「ゆい」活動支援事業

【質疑なし】

⑤生活支援体制整備事業

【質疑】

○「おうえんガイドブック」はどこでもらえるのか。また、古賀市のホームページには載っているのか。

⇒現在、市のホームページには掲載していない。

福祉会、シニアクラブ等、直接出向いて配布している。予防健診課等、関係個所にはデータごと配布している。新しい情報を仕入れ、追加で情報を提供していきたいと考えている。各個所で関係している地域づくりに活用してほしいと考えている。

○舞の里校区と古賀西校区が協議体のモデル校区となっているのは何故か。

⇒舞の里校区は３０年度４月に福祉会が５区に分区した。体制整備は、福祉会会員だけでなく、様々な団体とともに協議していく体制を作るのが大きな目的である。社会福祉協議会への体制整備事業の委託の中で、介護保険制度の方向性と合致し分区を進めたこともあり、選定した。

古賀西校区は第２層生活支援コーディネーターの関わりが深いこともあり、選定した。

○２校区以外は今後どのように拡大していくのか。また、どれくらいの期間で進めていくのか。

⇒地域福祉が土台となり、市民・企業・NPO・行政が一体となって取り組む内容となる。地域によって状況は様々であるため、市民の方々と話し合いを重ね、仕上げていくという方向性を持っている。

（２）平成３１年度地域介護予防「ゆいさぽ」新体制について

○現在「ゆいさぽ」を受講中の方に対し、次年度についてのアンケートはとったのか。

⇒指導者サポーターには意向調査のアンケートをとった。他の方については、すべての活動団体と直接話し、説明を行っている。理解が進まない団体については数回に渡り直接話をしているところである。

○来年度、新体制の「ゆいさぽ」の募集をかける際、市民に地域活動サポートセンターの意向がうまく伝わるように工夫して広報してほしい。

⇒地域活動サポートセンターの本来の目的に基づき、方向性は曖昧にせず、工夫しながら募集したいと考える。

○古賀市地域活動サポートセンター条例に沿った活動にしようとしているという事でよろしいか。

⇒平成２８年度に古賀市地域活動サポートセンター条例が改定され、３年間かけて徐々に地域活動サポートセンターの目的に沿うように動いてきた。

（３）古賀市生活体制整備事業について

【質疑なし】